Kiwi 通信

令和 2 年 11 月 28 日

第 2 号

校長　松 平 昭 二

shoji_matsudaira@hotmail.co.jp

〝いい子〟だったり、〝悪い子〟だったりしながら

子どもたちは、いろいろな〝いいところ〟をもっています。それを力一杯伸ばしてやることが、教育の最も大切な基本、いわば原点です。

もともと、人間の〝いいところ〟はそれだけがポッカリと浮き出して輝くというものではありません。〝いいところ〟は、必ず欠点や弱点と一緒になって表裏になってあらわれるものなのです。輝くと影ができるように……。

何でも引き受ける人のいい子は、オッチョコチョイで軽はずみ。慎重な子は煮え切らない。素直な子は、だまされやすい。感情豊かな子は、波が激しい。おおらかな子は、少し鈍い。元気のいい子は、乱暴だ。優しい子は、気が弱い。あげればきりがありません。

子どもは、いろいろなメニューをほどよく取りそろえて、いつも調和がとれた順調な発達をするというわけにはいかないのです。一つの価値を取り込んで発達するときは、他の面が崩れたりゆがんだりします。だから子どもは、いつもいいところと悪いところを合わせもったゴツゴツしたジャガイモみたいな存在なのです。

子どもの成長を見ていると、比較的穏やかで〝いい子〟に見える時期があります。かと思うと、素直でなくなり苛立って〝嫌な子〟に見える時期があります。実は、この〝嫌な子〟に見えるときの方が、子どもは新しい価値を取り込もうとし大きく成長しようとしているときなのです。

いろいろな価値をもった子がいる。しかもその価値は、その裏側の欠点や弱点を道づれにしながら子どもたちのなかに取り込まれていく。だから、子どもは〝いい子〟になったり〝悪い子〟になったりしながら成長していく。

このような子どもの見方ができると、わが子の〝良さ〟はもっと見えてくるでしょう。

12 月 6 日は子どもたちが楽しみにしている運動会です。親としては勝ち負けも気になるところですが、子どもの成長を確認する機会になればと願っています。